

## 掃苔会の活動報告（2）

### 長崎加工石材協同組合と合同で墓地整備

幹事 石橋久美子

4月号のたよりで、掃苔会の帰途に原田会長が、阿蘭陀通詞・名村家本家の墓地を確認することが出来たと報告された。原田会長が喜んでいらしたその時の様子が、まざまざと思い出される。今月も引き続き、掃苔会の活動についての報告をひとつ。

掃苔会は字のごとく、苔を掃く会ということで、原田会長をはじめとして、宮川名誉会長、小嶺幹事長他有志一同が皓台寺山門前に集まり、皓台寺の後山を中心に墓地清掃を行っている。蝮が出てくるおそれのある夏場を除くと、最近では月平均2回位行っている。

春先には、恒例となった年1回の「長崎加工石材協同組合との合同墓地整備」を行う。石材組合との合同墓地整備は、今年で4回目となる。1回目・町年寄高木家、薬師寺家、2回目・福田家、3回目・高島家別家の墓地を整備してきたが、4回目となる今年には、まず薩摩墓地を整備し、時間があれば唐通事の平井家墓地も整備しようと原田会長の提案。ここ数年間整備をしたいと願っていた箇所だった。

なにせ木や草などは、皆で一生懸命刈ればスッキリときれいにはなるが、石塔が倒れているのは人力ではどうしようもなく、いつもはがゆい思いをしている。大きい石塔であればなおさらだ。

薩摩墓地ということで、史談会会員で鹿児島県人会のお世話役をされている宮田修二氏に話を持っていき、鹿児島県人会の代表の方々と打合せ



平井家墓地にて



をおこなったが、願ってもないことと非常に喜びの声をいただいた。3月7日(水)、薩摩墓地に朝早くから長崎加工石材協同組合・鹿児島県人会・史談会を含め、総勢40数名が集まった。鹿児島県人会の御配慮で、皓台寺後堂吉谷大憲師の読経から始まり、いよいよ作業開始。薩摩墓地には、太く高い木が数本あるが、それもチェーンソーで難なく処理されていき、墓地全体が日に照らされて明るくなっていくのが嬉しい……。土に埋まっていたお地蔵さまも掘り起こされて台座の上に据えられていく。お地蔵さまも眠っていらしたんだ、とビックリ。石材組合から様々な道具を持ち込んでの作業なので、広い墓地にも関わらずスムーズに進行した。昼は鹿児島県人会から弁当・茶を手配していただいた。予定より早く薩摩墓地を整備出来たので、平井家墓地に移動し、大きい石塔を数個建てていただいた。心配していた平井家も整備出来たので、原田会長はじめ皆喜んだ。そもそも年1回の石材組合のこの行事は、若手の組合員に技能伝承の為に始めたのだということだった。皆さんの仕事ぶりは、さすがプロ、手際良く、とてもカッコ良かった。幸いなことに怪我もなく、無事終了。また来年の合同整備に向けて、月々の掃苔会を頑張ろうとの思いを強くした。感謝・感謝の一日であった。(了)